



診察室の午後

白浜はまゆう病院
泌尿器科部長 川嶋 秀紀

1990年代の中ごろ、テキサス州ヒューストンに、4年間、家族5人で暮らしていたことがある。私は、私が留学していたメデイカルセンターや市の中心部からさほど遠くない閑静な住宅地に、芝生に囲まれた小さな平屋の家を借りて住んでいた。上の二人の子どもは現地の小学校に、下の子は保育園に通っていた。

<16> ハロウィーン

暑くて長いヒューストンの夏が終わり、10月になると、南部のこの町でも家々に明かりが早くともるようになる。そして10月終わりのハロウィーンを皮切りに11月のサンクスギビング

配して鉛筆や消しゴムをくれる家もある。

この日の夕刻、妻は家に残り、近所の子どもたちが回ってくるとお菓子を渡し、私は3人の子どもたちを少し後ろから見守りながら一緒に近所を回った。暗くなった通りは子どもたちでにぎやかであった。

ハロウィーンは収穫を祝い悪霊を追い払う古代ケルト人の祭りが起源とされている。キリスト教の行事とは特に関係がないため、好ましく思っていない一部の教会があると聞いたこともある。実際にすべての家庭で祝う訳ではないので、子どもたちが学校からもらった連絡の手紙には、ハロウィーンの飾りがなく明かりがついていない家には寄り

ないように、また、密封包装された市販のお菓子やチョコレート以外は食べないようにと書かれていた。

私が勤務していたメデイカルスクール(医学部)の大学院生や医学生たちも気合の入った仮装パーティーをしたようだった。見せてもらった写真では、ある学生は頭のとっぺんをカッパみたいにして修道士に扮(ふん)していた。翌日はつるつるの頭にして学校にきていた。ハロウィーン・グッズも面白い。知人の家の廊下につけてあったお化けの人形は、人が廊下を通ると、目玉が動き追視する。

最近、日本でも、ハロウィーンの風習を楽しむ人が増えてきたようだ。洋の東西を問わず、秋の深まるころの祭りの夜は幻想的である。異文化の中にも共通項を感じ、懐かしく思ったりする。